

第 28 回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

1	日時	令和2年6月19日(金) 午後3時30分～5時30分	
2	場所	蒲郡市役所 本館 303会議室	
3	出席者	委員	愛知工科大学機械システム工学科教授 村上新
		委員	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 松本幸正
		委員	愛知運輸支局 上井久仁彦
		委員	愛知県都市整備局交通対策課 澤木徹(欠席)
		委員	総代連合会会長 細井政雄
		委員	形原地区公共交通協議会 天野忠則
		委員	東部地区公共交通協議会 小田密義
		委員	西部地区公共交通協議会 永島浅昭
		委員	三谷地区公共交通協議会 小田邦裕
		委員	大塚地区公共交通協議会 浅沼明喜
		委員	蒲郡市身体障害者福祉協会 金沢孝一
		委員	蒲郡市老人クラブ連合会 水藤シズカ
		委員	蒲郡市社会福祉協議会 鶴飼秀好
		委員	蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 山口健太郎
			(代理 伊藤承章)
		委員	蒲郡商工会議所 小池高弘
			(代理 井澤康彦)
		委員	蒲郡市観光協会 杉山和弘
		委員	名鉄バス株式会社 吉岡実
		委員	豊鉄タクシー株式会社 若林亨修
		委員	株式会社かね一自動車 天野一美
		委員	名古屋鉄道株式会社 河合貴夫(欠席)
		委員	公益社団法人愛知県バス協会 小林裕之
		委員	愛知県タクシー協会 深谷克巳
		委員	愛知県交通運輸産業労働組合協議会 白井淳
		委員	愛知県蒲郡警察署 中山肇
			(代理 山本英典)
		委員	東三河建設事務所 渡會竜二
		委員	蒲郡市長 鈴木寿明
		委員	蒲郡市総務部長 平野敦義
		委員	蒲郡市企画部長 飯島伸幸
		委員	蒲郡市市民福祉部長 岡田隆志
		委員	蒲郡市建設部長 鈴木伸尚
		委員	蒲郡市産業環境部長 贄年宏

委員	蒲郡市都市開発部長	宮瀬光博
事務局	蒲郡市交通防犯課長	池田高啓
	蒲郡市交通防犯課係長	齋藤裕記
	蒲郡市交通防犯課主事	石川雄策
	蒲郡市交通防犯課主事	井本博子

地域公共交通網形成計画推進事業受託事業者 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 1名

4 傍聴人 3人

5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 委員自己紹介及び役員の指名について

6 報告事項

- (1) 令和元年度公共交通の状況について・・・【資料1】
- (2) 蒲郡市地域公共交通網形成計画事業進捗について・・・【資料2】

7 協議事項

- (1) 令和元年度蒲郡市地域公共交通会議決算について・・・【資料3】
- (2) 三谷地区および大塚地区支線バス事業について・・・【資料4-1～4-3】
- (3) 連携検討委員会での協議状況について・・・【資料5-1～5-3】
- (4) 令和3年度生活交通確保維持改善計画について・・・【資料6】

8 その他

9 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が30名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており傍聴人がいること及び地域公共交通網計画推進事業受託事業者として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。

(2) 議題

ア あいさつ

蒲郡市長より、前回第27回の会議は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面決議とさせていただいた。コロナウイルスの影響は、市民生活だけでなく、公共交通にも影響を及ぼしている。本日は協議事項4件、報告事項2件を予定している。平成27年4月から交通空白のための生活の足として形原地区のあじさいくるりんバスが運行を開始した。昨年10月には東部地区で、今年1月からは西部地区で運行を開始し、三谷地区と大塚地区で運行にむけた検討が進められている。市民の皆様、委員の皆様、交通事業者様と連携して公共交通行政を推進していく。本日は、それぞれのお立場からご意見をいただき、よりよいものにしていきたい。どうぞよろしくお願い致しますとのあいさつがあった。

イ 委員自己紹介及び役員の指名について

- ・ 蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第5条第2項により、蒲郡市長が会長に就任した。
- ・ 会長より副会長として平野敦義委員、座長に村上新委員、監事に細井政雄委員と飯島伸幸委員を指名したことの報告。また、議長については蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第6条第3項に基づき座長である村上委員を指名し、議事を進行。
- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

(3) 報告事項

ア 令和元年度公共交通の状況について

- ・ 事務局より資料1に基づいて報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

イ 蒲郡市地域公共交通網形成計画事業進捗について

- ・ 事務局より資料2に基づいて報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

(4) 協議事項

ア 令和元年度蒲郡市地域公共交通会議決算について

- ・ 事務局より資料3に基づく説明と監事代表1名から監査報告が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

なし

イ 三谷地区および大塚地区支線バス事業について

- ・ 事務局より資料4-1～4-3に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 一昨日協議会を開催し、計画を了解いただいた。
- ・ 検討の際には、地区でアンケートをとった。週3日の計画になっているが、毎日走らせてほしいという意見が多かった。先行している地区が週3日で進んでいるので、週3日で了解してほしい旨、住民にお願いした。公共交通なので毎日走らせてほしい。
- ・ 県下他の地区は、54自治体あるが、51自治体でコミュニティバスが走っている。走らせていない3自治体は名古屋市、江南市、扶桑町。51自治体の内、隔日運行は3自治体だけだった。毎日走るのが当たり前だと思う。9つの地域では無料で走らせている。
- ・ 1年間の運賃収入は100万円にも満たない状況であれば、毎日走らせる姿が当たり前にしてほしい。今回の計画はこれとして、毎日運行の検討をお願いしたい

(事務局)

- ・ ご意見ありがとうございます。三谷地区においては、地域の皆さんに熱心にご議論いただいている。他地区協議会の中でも毎日走らせたいという意見は承っている。最優先にしているのは、路線をつくること。その後、地域の皆さんの声を聞きながら日数の拡大や路線の変更等を進めていくようにしていきたい。ご理解をお願いしたい。

(委員)

- ・ 町部でもそうした意見があった。将来的には空白地対応のための事業として進めてもらえるとのこと。お願いしたい。ある地区の民生委員の会議で、風呂に行きたいが、近くの風呂屋がなくなった。ユトリーナか寿楽荘のどちらに行きたいという意見があった。元気なお年寄りが風呂屋にいけるようにしてほしい。
- ・ 週3日運行について、火木土曜日の運行は、木曜日は病院の休みが多い。病院や買い物、風呂屋は高齢者が行きたいところ。今後検討してほしい。

(事務局)

- ・ 町部での意見もあると聞いている。鉄道駅から1km、停留所から300mの圏域における人口カバー率は、計画策定当初75%だったものが86%になり、三谷地区と大塚地区が加わると91%のカバー率になる想定。まずは交通空白対応が最優先。
- ・ ユトリーナには形原地区支線バスでいける。寿楽荘は大塚地区の路線で行けるようになる。市内の旅館の日帰り温泉も利用できる。
- ・ 週3日の火木土曜日運行は、すべての地区で同様となっている。高齢者の方は、朝方利用が多く、木曜日の午後は休診のため、病院に行けないという声は届いていない。運行日数を増やしていくことについては、今後の事業推進において必要だと考えている。ご意見として賜っておきたい。

(委員)

- ・ スケジュールについて、事業者が決まった後、車両は誰が所有するか、予備車の確保、タクシー事業者の場合は、乗用事業との併用についてなどを確認したい。
- ・ バリアフリーの適用除外申請は理由をしっかりと作成していただきたい。

(事務局)

- ・ ご指摘ありがとうございます。本日の協議後、プロポーザル事業者選定を進めるが、所有者、予備車等の扱いは計画に反映します。
- ・ 適用除外申請は、形原地区、東部地区、西部地区の地区においても適用しています。その申請理由は、走行する道路が狭いこと。バリアフリーについては、障がい者団体の了解のもと対応しています。次回これらの点は改めて確認させていただく。

(委員)

- ・ 新しい2地区の運行について、地域の方に熱心にご検討いただきありがとうございます。実現するのが当面の目標だと思うが、本当は運行がスタートであって、利用の拡大を進めてほしい。毎日運行が望ましいこともわかる。公共交通の1番の役割は移動の保証だが、財政の問題もあり、現実的には移動の効率化も重要。
- ・ 空白地を無くすことが最初の市の目標。運行開始して、朝夕時間帯の拡大や運行頻度という拡充になります。

- ・ この議論は、兼ね合いをどこにもっていくのか。最初から100%の目標は難しいので60%をクリアして運行拡充を進めたい。
- ・ 計画をみると大塚と三谷地区は近いが、接続はしない。東部地区との乗り継ぎができそうだが、乗り継ぎの方向はどうか。人々の動きと合っているか。
- ・ 三谷大塚は、名鉄バスは横方向につながっている。名鉄バスの活用、乗り継ぎについて。JRの活用についてどのように考えているか教えてほしい。

(事務局)

- ・ 接続について、三谷地区と大塚地区の接続は、地区の間に地形的な条件で難しく、地域には相談したが、双方とも接続することにはならなかった。
- ・ 東部地区と三谷地区の接続について、市民病院に行きたいという声がある。東部地区に接続して病院に行く利用を地域に案内していく。ダイヤは乗り継ぎできるように、時間設定をしています。
- ・ JRや名鉄バスとの乗り継ぎについて、大塚地区は大塚駅と接続を考慮し、ダイヤ調整している。
- ・ 名鉄バスは三谷温泉、三河三谷駅、丸山住宅などの停留所で接続し、路線自体はまるまる重複しないように配慮し、停留所での乗り継ぎはできるように設定しています。乗り継ぎを想定して設計していきたい。

(委員)

- ・ 接続想定ありがとうございます。病院接続は、乗り継ぎがわかるように紹介してほしい。現在の時刻表は、それぞれ1枚ずつの時刻表となっており、接続はわかりづらい。乗り継ぎダイヤがわかる時刻表をつくってもらえるようにしつつ、接続場所、ダイヤの設定を紹介してほしい。料金については、今後乗り継ぎ割引等により、利用者の抵抗を下げるようにしてほしい。コミュニティバス同士・名鉄バスとも乗り継ぎ割引できるように、知恵を出し合いながら、今後の要望として議論をお願いしたい。

(議長)

- ・ すぐには対処が難しい問題もありましたが、まずは、空白地解消として今回はこの計画で進めさせていただきたい。

ウ 連携検討委員会での協議状況について

- ・ 事務局より資料5-1～5-3に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

[質疑]

(委員)

- ・ 第2次交通計画を作成する際のお願いです。5月27日に地域公共交通活性化再生法の一部改正があった。
- ・ 計画策定が大事になる。作成していない自治体は補助金が与えられなくなる方向。蒲郡市は計画を策定しているので心配はないが、新しい計画は、数値目標の設定が重要視され、目標に対する評価が大切になると聞いている。
- ・ 現状は支線バスの評価基準があるが、名鉄バスの活用など、市内すべての公共交通について評価できるようにしたい。報告事項1で年度の取組について報告がされたが、

コロナの影響で利用実績が減少した特殊要因を除いた分析などもしていただきたいと思う。お願いしたい。

- ・ 質問5-2のアンケートについて、問5-5の質問の意図を教えてください。

(事務局)

- ・ 法律の改正は理解している。評価指標は次回報告していきたい。
- ・ アンケートの設問は、蒲郡市では名鉄電車と路線バスが一部並走している。電車のルートを変えることは難しいが、名鉄バスの接続について検討をすべきかどうか議論のため設計している。

(委員)

- ・ 現在の事業取組評価の5頁について、事業評価はあるが、目標数値に対する評価がない。そのまとめをお願いしたい。
- ・ 新しい計画の中身について、何が目玉になるのか。いつも新しい事業を入れるのがよいわけではなく、継続でも構わないが、何か光る目玉事業を入れたい。この地域はきらっと光るものをもっており、全国でも注目されている。
- ・ 観光についても記載されているが、人口減少の項目で設定しており、蒲郡らしさが見えなくなってくる。観光を盛り上げていくのであれば、柱として設定したい。インバウンドだけでなく、日本人の集客も必要。何が目玉なのかは、検討しなくてもよいので考えがあれば聞いておきたい。
- ・ 行動指針の組織の変更について、地域組織が立ち上がってきたので、横のつながりの組織はよいこと。民間路線バスについて協議する場として地域バス協議会は特徴的だったと思う。変更案ではその役割が見当たらなくなったので教えてください。

(事務局)

- ・ 目標設定は、計画の後半に設定している。今回の報告は事業評価なので、数値目標の評価は次回報告させていただく。
- ・ 観光については、関係部局と連携をとりながら、検討を進めたい。
- ・ 地域バス協議会は、連携検討委員会に統合する考えで、連携検討委員会にも事業者として参加していただいております。統合により地域代表も参加して連携しながら検討が進められると思っている。

(委員)

- ・ 組織の役割は明記をお願いし、数値目標での評価は次回報告をお願いします。
- ・ 新しい計画において、事業の継続や追加等の変更はわかるようにしてほしい。

(委員)

- ・ 問5-5の設問に関係して、鉄道と並行する名鉄バスの利用について、鉄道駅で乗って駅で降りる人はいない。鉄道のほうが運賃も安い。鉄道とバスは競合しておらず、補完し合っていると認識している。

(委員)

- ・ 観光協会の方も委員として参加してくださっているので公共交通に期待することについてご意見を聞きたい。

(委員)

- ・ 観光についてご指摘があったので発言させていただく。観光は面でカバーしたい。蒲郡に来ていただき、喜んでいただき、最終的には住んでいただけるようにしたい。良いところを点で結ぶのではなく、面で結ぶことを考えたい。
- ・ まずは、市民に便利な移動の手段があることを市民が理解できるように、便利になっていることを市民が理解して、周りに発信してもらおうことが望ましい。
- ・ 観光協会は、自転車で動いてもらうことも戦略として考えている。一緒に連携して、面で移動できるように進めたい。産業環境部長もみえるので、議論しながら進めたい。
(委員)
- ・ 自転車と公共交通との連携を考えるのはよいことだと思う。
(委員)
- ・ 自転車の活用を含め様々な施策を進めている。
- ・ 行動指針の3頁に観光部局の役割として、観光ビジョンの推進（二次交通の対策）の記述があるが、観光ビジョンも今年改訂する予定。改訂時期が重なっているので、連携して策定していきたい。
(委員)
- ・ 自転車について、清須市が新しい交通計画を発表しており、自転車利用数も目標値に組み込んでいる。参考にしていきたい。
(委員)
- ・ 蒲郡の宿泊需要が厳しいという話を聞いている。地域の方が地元の温泉・宿泊施設に行けるようになるネットワークを作り、売り出していけるようにしたらどうか。
- ・ 新しい行動指針の数値基準20%を10%にすることについて、形原地区の方はどう思うか。
(委員)
- ・ 形原は地域的に恵まれていた。形原ががんばった数字になっていると思う。先日、やっとユトリーナに行けるようになった。1日に40人乗ったと聞いて安心している。便あたり5、0人は守りたい。広報に載せる等、継続してPRしていくのが重要。
- ・ 金曜日の日数を増やす要望を現実に行えるように頑張っていきたい。
- ・ 名鉄電車との乗り継ぎについて、高齢者には少し難しい。ベンチをおいたが、待っているのも高齢者には辛い。まだ乗り継ぎは進んでいないと感じる。
- ・ 今後は団塊の世代の利用が進んでいくと思う。
- ・ 数値基準を10%に下げるのは問題ない。
(事務局)
- ・ 形原地区の昨年度の収支率の実績は12.4%だった。形原地区は来年事業の更新を協議する予定。その際に週4日の運行に増やせるかどうか協議していきたい。
(委員)
- ・ 基準値を下げると達成が進むので、週4日の要望が進めやすくなると理解する。

エ 令和3年度生活交通確保維持改善計画について

- ・ 事務局より資料6に基づく説明が行われ、運輸局との調整に伴う事務手続きについ

てあわせて事務局に一任し、承認された。

[質 疑]

(委 員)

- ・ 資料2ページの事業の目標について、数値目標は大切なものと理解しているが、三谷地区の目標数値は厳しいものではないか。
- ・ 東部地区は、三谷地区よりも人口が多い一方で、三谷地区は東部地区よりも高い目標値となっている。形原地区の基準から設計しているのは承知しているが、意見として指摘しておきたい。

(事務局)

- ・ 目標値は有識者と相談しながら設定させていただいた。
- ・ 去年の東部地区、西部地区も形原地区の直近の数字から設定していた。その考え方を踏襲して設定している。
- ・ 高い目標だとは理解しているが、初年度はより高い目標を目指していただきたいとして提案している。

(5) その他

(委 員)

- ・ 路線バスの事業について、コロナの影響を受けている。支線バスも同じだと思う。路線バスの運行について、車内の安全に配慮して運行している。前年比35%まで落ちた時がある、現状は7割の水準となっているが、まだまだ先が見えない状況。
- ・ 新しい商品を開発したので紹介したい。得々パスに代わるものとして、定額性の乗り放題フリーパスを発売した。利用をお願いしたい。
- ・ 路線バスは広域ネットワークのため、駅のダイヤ接続を優先している。支線バスは、路線バスと接続したダイヤの設計を是非お願いしたい。
- ・ 4月にダイヤの見直しをして、経費節減をしてきた。利用者に迷惑をかけないように改善してきたつもり。公共交通の役割を担い、地域を守る立場として維持に努めて参りたい。

(委 員)

- ・ 積極的な意見が飛び交っていた。熱心にご議論いただき、これまでの事業の推進も皆さんの熱意・ご協力のおかげだと改めて感謝を申し上げたい。
- ・ 市内でコロナ感染者も発生し、危機感をもって対応してきた。自粛生活の中で公共交通の利用が減少したのはやむを得ない。これからは、市民、利用者に安心安全を与える工夫、周知方法をしっかり講じながら進められればと思う。
- ・ 有識者の先生には専門的な見地からご意見を頂戴した。計画策定の際には、蒲郡の特色をもって、観光面での足、生活の足、子どもの足など、ニーズに配慮して対応することについて、心を改めて決意したい。
- ・ 本日の協議、感謝を申し上げたい。ありがとうございました。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議は10月ごろ予定との連絡を行い会議は終了した。